



香乃夢前書

冊

79

535

4.





門 79
號 585
卷 4

香道秘傳附採奥之禁下

大板流芳 著

○宗入香爐圖一卷考

小川の中志野入道相傳之自記

あまがは志野家乃門中

傳之考

元龜四年の天正元考と改元あまがは

天正乃考と同日因て

香道秘傳の支所

小畧と

香爐十七品乃圖形とあり後世

たうるといふも香爐の形よりく

あつものさう是よかたてぬくべ又銘

をわひらひたてぬくあり事あり

別よこし圖け傍のあふ師家より傳

るものあり別よちりてある

二寺香爐は二寺香爐一に

同名して形は異なり香志の愚

博山爐をくまうと書しがもこし圖

と合せもまはらひあり沉香とてこの

がくせり博山爐の遺法もあつ

り今中邦のあふ岳の寺及大徳寺妙心

寺等乃も今よ片香と名付て沉香

とて山のざくゆきて香爐の形も

たりかやうの如と云ふるべし小片香大

片香とて今ふりら也
 やや香煙生言僧乃煙とよ今用か
 絲乃香煙ちり上よやわり種乃形は
 ろあうやと云や茶家乃考は所
 としてとてと事合の整致なる事と
 是より東山殿河清記とて大屋香煙
 とかきとれはちきや正致る種一は
 やと和刻をて同ト

聞香煙ハ竹乃節香煙ちり此香
 と貴教と尤一重は乃その法用也
 青磁ちり同香煙ハ紐香とてに用也
 ろは渡りて二寸めを計なるは
 とと小のちをりわ
 桶六香煙ハ磁釜なり
 大とり香煙古板乃圓ハ是わると
 多く民間にわる古物ハ大取香煙ハ

香道具の支所下

とて是より類聚雜要の圖よは是
あるもの載かひては單蓋あり
下は多くは本を以て漆塗し
梨地蒔絵は多くあり火を以てか
よりおきて開つる香爐へ又乳か
かり

志は香爐の磁蓋あり

四方香爐七磁蓋なり考所乃亦

あり考合圖一

由り香爐の磁蓋香志の中

は委く考ゆ

襟香爐の磁蓋もあり

との香爐とて香爐の名の

由り考じり磁蓋あり

舟香爐火舟香爐を形よりて

名付しとらんえりより糸若

香爐の考合圖

香爐の考合圖

香爐さう

鴨の香爐 鶴鶴香爐 青磁七かひま

わらわりのらひ香まくく 獅し子しの香く

爐ろを同どう存ぞんなり

灰はいの形かたちが圓まのびび 茶ちや殿てんれれ助すけの

ししのの方かたとと別わかれ

六む合がのの灰はいれれ押お形かたちにに書かはは右みぎ旋まわり

圖ずささうう左ひだり旋まわりり寸すんとと云いははれれももありり以も強つよ

別わかれれにに記しすすのの辨わべべとと今いま爰こゝ小こ不ふ論ろん又また灰

乃すなはちち界かいとと刻こくとと竹たけ合がとと云いははれれももありり也なり

四よ方かた香かう爐ろのの灰はいはは四よ合がなりり 圖ず乃すなはちち

ままるるいいどもども香かう爐ろをを内うちにに足あららるるもも是こゝにに

是こゝにに繪えてて一ひと川がわとと是こゝにに書かははれれるる也なり

わわらら角かく香かう爐ろ乃すなはちち圖ずもも寸すんとと云いははれれるる也なり

圖ずささうう利り休きゆう圖ず書か秘ひ傳でんとと云いははれれるる也なり

香かう爐ろはは寸すんとと云いははれれるる也なり 香かう爐ろはは寸すんとと云いははれれるる也なり

香爐圖式

そのころは
 此の書に圖と改め
 どのてあふさ候と仰せ
 ぬ合より付け付け
 と云け書の圖と余が傳
 らむいりのき圖れ
 三合よりつけ
 且此の圖も余が傳
 本書よりき圖と申す
 五

甚畧なり此の
 付るなり右の
 りんたる
 二室香櫃け
 所み合の
 所六合と定
 こそゆりし
 先きに香櫃十七
 五

本書の編と合考也

は十七本の傍益卓の墨合なり

口は多しけ外傍の墨多し余が傍本

別は一冊とす一冊ふかきと又六角八角

乃益わりるるのわらわい書になす

別はきしひわり

もろ傍の事深き秘記わきごと師

家より秘して傳ふべきわらわい

述がく物飛の燭卷なり

の形より宣和博古圖に載り

香色小色大色寸法大板圖の記

別は法寸法類の書一巻なり志野

家は用ゆら古の香筋本書の記

杉より竹の皮付ても他

寸法別は香色と香の記

付る事圖の記も記

しはともあり

奥書の中おのりき聖雲せいぐんの釋迦しやくぢや佛ぶつといふあり

建部たねべ隆勝たかかつの其傳そのでん千代ちよの枯かと委まかく

載のこらりんぶ

岡香おかか能の知ちあるの釋氏しやくし書しよ中の古こ蹟せきを

了しよ天正てんていの多馬たばを考くわうわり

道三だうさんの醫師いし道三だうさんなる翠竹すいぢく菴あんと号ごうと

香茶かうぢや乃の主人しゆじんなり式しやく致ぢよ不ふ日にち醫師いしたる三

ハそのまゝ公こう方家ほうけより東大寺とうだいじ禪ぜん院いん乃

事ことの相國寺さうこくじ盛都せいとも道三だうさんが門かど中ちゆう也

あられあられ香かうと好このし事こと甚しんし

け奥書おくしよと考くわうふ宗そう入いりがみと行い書しよ法ぽう

道三だうさんが家いへは傳でんしと建部たねべ氏うぢ乃の下しも地ぢに

よりて字あざ一いつをつやはしの奥書おくしよなるべし

香茶主人の文行

○建部隆勝香之筆記考

此書ハ宗信等紀ハ乃貴書ナリ
 誠ニ前人未幾ト記隆勝ハ宗信
 よも亦ハ孔子の後孟子あり
 佛像の魚物も亦香燭と云ふ事
 子細なる事ナリ又神と云ふ事
 記あり口決ナリて委くわく
 又けり二つづくま書燭ハ付りたり

畧儀より事しうあり書より記
 ろ亦香燭と云ふ香燭もその
 り古記亦少はり記香燭と云ふ事
 類より事しうあり記

たどののは多しといふも津國市庫
 のくあまの書よりあり建部氏乃
 記の記よりあり寸法も記しあり寸
 五六分の間香燭より記行あり香

燈火くいのたるる炭るるでい火力あふ
どめさの香煙勿論大から火あく
又暖氣の内と敷寒乃何く火あかん
ちぎよものさり余多きあきと試作
まん得わぶき事なり
香盒と袋小入の香氣と世と
まためかろる
名香の焼くはるど
組香たど

小月事あり
香中而中小香と焚事あり
小の論なり香志と載る
名香十一種の色折や別よき事
うららんがきもりつけ易かりん
なり
香合よ香色根入瓶口傳宗入香煙圖
のねくよ入やうの圖わり合考なり

香煙圖の考

香道集の支所下

沈シの寸スは宗信シウシン乃ナリ沈シより小コ一イチ合カフ考カウへ
 一イチづツ重ヘんン是セをケル事コトとスるコトと
 鴨香カモノカ煙カのシらハひ宗信シウシン乃ナリ沈シより同ドウ一
 うウしてユりウうウ思シ考カウする宗信シウシン乃ナリ沈シと
 用ヨウべベ一イチのノ字ジとス入イてイ呼コぶコけケ小コ補ボすス
 火ヒ弁ベン袋サイよりヨ由ユ来ライ之シ一イチ礼レイ内ナイ則ソク云ウ左
 佩ヘ紛フン帨シ刀タウ礪リ金キン燧スイ多タくクあアれレばバもモ依
 りリあアるルたタらラ火ヒ打ウチとスるコトがガ事コトわワり

とトりリくクらラもモ採サイ桑サウ老ロウのノ舞マウ樂ラク
 もモさサもモぶブやヤ桑サウ袋サイとスるコト事コトわワり今
 のノ竹チクのノ口クやヤ桑サウ人ジンのノ物モノどドたタらラしシ
 のノ舞マウとス由ユ来ライのノ本ホンのノさサやヤ栢ツバキとス針シ金キンふ
 てテ所シヨくクもモいイはハるル青アヲ紙シ存ゾン在ザイるルがガ火
 おオ袋サイのノ紙シとスあアりリ川カハはハ落ラクしシるル事コトわ
 きキだダもモいイはハるル徳トクをケルもモ火ヒ打ウチ袋サイとスげゲし
 とトりリくクらラ

香道集の支所下

二

はる紙のありひよ入る香るるまをよもの
栗山殿の形はわらわらうものよ入て持来

ぢりや

沈外の韻何そまとわらうそ沈外れる

知金一深子細あり

香着のるの楼は是の火着るるるる

香着とわらう事とさう今り香

着 本竹のいじり本らとさう一あ

火筋 火筋のい香けとさう

ものさう今も世人の火筋と香着と

のさうさうい香筋とさう

さう筋とさうい白銅を焼う

ものさう宗匠乃虫よ見くさう

いさう三十三ヶ条わらうけはる本所

かり

是らうる香本所のつらり

香道集の支所

伽羅 二十二種 新伽羅七種 羅國十一種
 其那斑 十二種 真那拔七種
 新伽羅ハ後ハ波アリ伽羅有るべし別
 二新伽羅と云ふものより上は別
 一伽羅羅斛滿刺加 真寔ハ是
 小南方海外ノ國の名也後世種門
 答刺 差咀羅ノ二種の番と申して
 六國と名付と知又ハ波と云番あり

しハ六國ノ名目ナレ事子代の林ノ
 考のせりも伽羅のまよ切考證を
 増補の番志よのせゆる子代の林も
 載るやく仙勞吟組とサソラをりといふ
 人わきども誤なるべし長崎西川氏乃
 書華夷通商考 にも種門答刺國と仙勞吟
 祖島と云とあきバスモダラと同國あり
 サソラハ南蠻の中迦摩縷波國の南方

香道集

室利差咀羅國（室利差咀羅國あり）は是やサソウの花也
大漚も國の名ありと云く六國と云名目
ハ東流のハナフ本所と云なり本所と
聞くとハ奉香道の本所あり
此奥書も隆勝の手て人よむとされ
筆記なり
いづれ志野家六十一種の名香の圖
なり後世乃考もなき事実也

ども多し

紅塵（紅塵一色）は楊貴妃のとも香の由一
致と云傳は桜は妃の好む花
一名紅塵と云ハけ縁はもとや名付
わん書言故事にむく
鶴鳩（鶴鳩）はすゝささりて一本乃
名めし香の種はわん書考
ハ香志は載ゆる沉香の中の一類也

香道集

是くたるの香はるるありてその沉香は
 屬一伽羅よの四種の品類あり
 望上馬まで志野六十一種乃名香の
 聞るるも中降勝たしふ不聞を
 の二十二種あり降勝乃時よんや六
 十一種さぶかよそ秘ひゆるごと見
 えり宗信の好むはたの
 事とそわくはてそらふぬまより

やにゆづらなるぬもの亦二種あり
 後世の今よりして善物たる事案
 是く世よ秘細なるもの多くは贗物
 こそ善物あり事か多くは終る
 事さるる香と彌南との贗物と
 て人と調えぬ商人のよきされど
 御まふたごと香道の宗匠めける
 人又やけ罪ありのまことあり

いふにわらん人い是とあり
 香道は秘事多しといふも本所紙
 間別は事一乃を要あり
 鼻のむちのり右き左半の事一は
 はたそそ二息式は四息間たり一息
 又ハ三息中事と云ともりつれ
 ども時刻よりた右乃鼻孔のむずる方
 わり間時十二時の時とけり通ずる方

あそつばは香よりくへん宋愈瑛
 上腐談曰欲知時辰陰陽常別以鼻
 鼻中氣陽時在左陰時在右亥子
 之交兩鼻俱通謂之洞雙洞是也
 けはとくはとく
 四季にり香の名と月ち物わる事
 既ニ宗信の事乃中ニ辨しゆ
 火あいの事本書乃後月ゆ一宗信ハ

香道集の支所下

四文ありて一書ありて一書ありて一書ありて一書ありて
け奥の文章をよみまばも人へ指して
時次の人へ流をせし彼處状されば
定る公武の内なるもの方へ上らる
るのちろく異中に道南と系と高若
わの書ありて道南は上宗捨が門
人なり宗捨は則勝が門人なり
道南が次子と貴人へ指して書きたるし

○十組香之記考

是の香の十組香なるはしつゝの香の十
組と申し来りたり宗捨川氏乃此
よありて組へ一車林の香よ辨
じらぐあはく十組香を記余が所
取のものに真名席あり細川香自
法印の香より由來なり十組香
自法印より来りたりわたりてあり

香とて記せしむる細川氏も

十種香

十種香本書に記せしむる所の試す

乃十種香あり試ある十種香又別り

わきごとくあは試すと載らむは幸

ハ試あるものよりも風情多かれは撰入

らむ一なるべし

出なむはかくりてはまづめむあり

今ハ香本とりしきりもはらへてハ主

香とり

一客と云ハ連中あて梅香とす一を

云なり點客也けか心也二人よりハ

点二のなり客もうにむくさといふ

なり

れと入ると今ハれと打と云る香巴

の香合之記は打とかをたりの香

香道集の抄下

入るまゝのや

点のつけやう前後じまじらふとあはら

とすらなり後世は正傍の改あきま

本書ゆはしめ法や系圖香よ

の正傍の事とあり

何事と云事今の書と云なりよ

びく香ぐくまじらふも名の雅ふ

らざらめらるをせうくじと名付

きらわらぐ一雅人の地なる事と云と

古歌のゆまらえ名付ゆるなりし

頌徳院御集

あつたふねなるけりや梅の花

香ばそらひてやうとれさく

あかやう乃古あのかやうとらむ

ひり

札の縁と二字ふく事四季まよりのあ

る本ふあてて心得る

香道集の支所下

十九

○香道集の材料
一
世と夢事ハ一柱の奥にれども切とれ
人よわらばさのせむ事あり

花月香

本書記録の端に追加と同一圖あり

と心得毎に追加をすれば尤客なり

香え二人ありて月方花方と立り

是焼より香くくよりやう香中結

口傳多し一識もふそつひ夢毎別

異花月香 焚合花月香ふと云紐

をわり

宇治山香

宇治山香ハ試るて後そが一柱あり

てゆらゆら事細わらるる也あいて後

の香望さく趣あり

名系紙徳やう多代の柱よ委くのせ竹

ゆより爰も畧と

點一人字ある点二人よりハ一点たり

小鳥香

小鳥香名目一乃まきとみそさし
しきせにきいとまめゆりとまし
書もわりの外又三様とて字小鳥香もわ
り點一人まきとみそさしとて
郭公香

郭公乃字本乃のこまきとみそさし
ふわらぶとまきとみそさしとて
よ用外まきとみそさしとてハ子規能と
乃字と用んハ香のまきとみそさし
深ら方りまきとみそさしとて本久り
方まきとみそさしとて深らとてあけあり
粉墨と製一用白製とてふはわり
又一人間ハあまきとみそさしとて

小草香

さぬくの草の名をて同事あり
どもきやうがりの外よりきつじ
さねみふへへつ分の折分とて
事もわりとたり

系圖香

けいどの同香別種乃異同とすりつらに
る人の血脉とけりるごとく一固く系圖

香とりやうり或は源平藤橘の四

姓よ表し香口種とわらふよりて系

圖香と云ふるとけい図説ありて

うよはしむと又後世系圖香小名目と付

るも後人の附合ありて名目行はし

事とあはれと流は古はよらぐい名目と

用ど源氏香乃時巻の名とす付へ

流乃系ふ載るごとく三姓考を是より

や出らんとしてく三桂香の名目もあはる
あはる事あり

け組よの正傍の長のりやうる香紙よ
辨一が

本書よ云香の定アそ四文よ過とに

小源氏香と書付の付の巻の名と圖

乃下あもれ紙まあるとあり

右い本文の紙と梅よびく一源氏香

色香四種よそつりやうにりくはる

今い源氏香といふは是北香の文種

よそめ二十ふ色とありては中と

五色とありてありやいさるが源氏

ふ十二の名目よあひく一五種よた

よ相臺着浮橋の前後の二帖よた

湯か一四種よそめ色はるも湯ハふ十

よなるゆもどけ紙省畧して書るは

りやへぐ〜今ある巻を後の巻に
とまひて〜つゝおきぬのしり
帝本とる智との場と除へ四十八を
よは成金

十種香概全

け組連理香乃併少々甚秘事
りさりに校と〜所家〜れ秘傳
せらものさきだ今あ〜るゆゑ辨

ぐ〜

又一の札と二の札と二枚札筒に入
余清同ド。い久孝のあ〜るさきだ
第一後二の第一後一の筒に入られ
か〜る〜第一後混ずら〜ゆら
あ〜る〜記録の表あ〜るにまが〜け
事〜る〜わ〜る〜流〜る〜は筒〜る〜に
居と出〜る〜十とさ第一後〜る〜に札

とくはるのりさるるのりさるるのりさるる

心通

源平香

源平香ハ立物あり紐香ハ始りし旗を

始りし盤ノ立とき始一柱聞高ぶらん

ハ旗とゆゆるなり高ぶらんはまきまきと

くまり大旗はうらぐ事あり立置け

まり連中のうら務てうら聞人と二人

ありし大旗のまあ大将としてすむと

しは後ありゆり旗の満本書に増補

すらぶく十二本あり大旗ハ中ふ立置

小旗げうすむべし大旗ハ始終動む

け紐子名所香ハ紐ノ事漸の糸

小旗

鳥合香

鳥合といふは實作み多し小鳥合

了と云事古今著聞集見たり
 け名目とあり然れども本書に載る所の
 鳥の名は古今集三鳥の傳授とあり
 鳥の名あり
 十組の香のつゆはくはぐく香
 事ハ別ニ十組秘事考一卷篇よが
 くくゆ

○香之雜記考

け書凡例も編やぐく非人の
 他と云事とありと書中隆勝也
 中とりはなまのちのちなるべし
 徳方少も寫本多くわきまは百
 年の來の書なるべしと記し
 け記事案下にはわくくあり
 辨

け書んぐめ香次才と云香乃はご
 やうの事志野家建部氏もいふ
 所又余が師傳もな記あるまじけ
 事いふゆんづも乃流より来り
 色のつちと恐中右のそ他るべ
 事いふも當つる事なり右記より
 わり書かまはむぐりに削り去
 かく右板のまを本書よめり

所乃押板の事け當りく押しもの
 やさうがうは四季の所押板と云
 事いふなり宗信の書八卦香爐
 の條下に辨じぬいふく保汝なら
 りと知る余が師傳少しけるはし
 香乃相帯の事けしき流るる建部
 氏の後け書のかしはやせよ約あり
 とりてくうりて去る志野氏の多れ羽

へまらひのど小ゆいそこのどらうと云
 後と峯ら按よるらあめそ茶
 子始て李益翁が後よみこら
 香志本邦を後よめそのるれも
 用て便からるのたきばれ用てう
 南流も羽帯と用て後小指よめよ
 能今よのそれり是古来の遺はる
 一

南流ハ筋目一づ付ら志野流ハ二六
 川付や宗入の遺よ又け書ふも二づ
 三方うも付らるうと云ら
 清乳くへハ墨茶ハ不入と此後忍ハわ
 かん志野の書ふもつるも墨茶ハた
 ぶーと云りけ後よあさづんそのら
 又清取板ハ竹付と云りりよさるきり
 け後も忍ハわらうるえ清乳板一の

事ハ結ルれど面接ヲ習ふべし

たまふとのまじけ一版の紙接正の申す

辨

名物乃香煙るるの本の着るて所とに

あしあともあつて紙へたるる事るる采

川氏よりえた紙物として中とを意

よけり類よまことよかよとせし大物

あまよるうの付物じらあよ紙

ものかろくしてはうくわらばるる

用をならぶ

元焼乃香の大さは志野建部の書

はくりけ書乃紙へ大畧から紙

用が

夏ハ香をまされぬうけ紙のびくと

とせども大畧する所は必夏に準てせぬ

とも定が志野の香合もみ月され

香道集の支所

二七

香道真傳抄
二十

ハ中夏ちゅうかかり只大暑たいにしよの時ときは伊予いよが
果はよハ元もとだきまけけの夏なつの元もと焼やくハ沈ちん
香かうららのの白檀はくたんハ香かうすじ
このこのののききりり名な香かうハ必かならずどど果はよよハはきき
どど付つ外がららううののそそれれははららききとと
香かうととつつててああららハ物ものよよめめてて是これ
るる梅うめハ香かうハ根ねよよふふわわぐぐ毎まいりり
ハ能よくくあありりああららがが一いっ者しやうハはああららじじ

ササハ倭やまと志しの野のの沈ちんハはららきき事ことささらら
てて根ねハ香かう筋ねよよてて香かうよよふふわわぐぐハ
唐紙たうしハ香かうとと色いろ紙しハはららききハはららきき志しの野の
紙しののどどくく落おちるるハ用もち合あハ唐紙たうしハ
油あぶらとと吸すててああららハはららききハはららきき
名なののよよハはららきき香かうハはららききててああららハはららきき
紙しハ色いろ紙しハはららきき
香袋かうふくろのの寸すん法ぽうハ書かきよよららくくハはららきき書かき

香道真傳抄
三十一

あはこは後めきどもすはの製か
あまふちふふ魚一されの久我合也
習もわくある事さう

少くもりふだくたごんしうくわさ
のきしりしり建部氏の後う
りあも番たごんの方わさる

望いずの後二十六條あきあり
奥書さたあうあまさびく作

人の他ら事りつ連り比の事ら
事とあうば

右香道秘傳の條目は移て古人の題
よ随てこも秘意と述も解ごら
と考あうてけるを常人よたうらと
然ども先きうり深く秘してみごらに
傳すまごら事と秘ゆきハ今がうら

○香道奥のオボエ
月と車もあそびたり〜ぬ又心得が
はる事わろふ余が愚梅と加て折衷と
柳子塞驢の騾尾はけくの〜とあり

享保甲寅歳正月上浣

浪華隠士

大枝流芳記

香道奥の禁下大尾

大枝流芳子編集書目録

秋乃光

附録香志

古組香十不新組香十不

お茶

千代の秋

新組香三十不
之約字実の考多し

お茶

澗流線

古組茶川流と書
香色折形出たる図

お茶

軒れ玉水

新組香十不香道の古實
新十枚香名考和香本名考

お茶

千代乃古道

香道の古実と著と

未刻

○香道奥のオボエ

香道集

改正十桂香之記

附名香名寄

書本

元文四年己未五月

堀川子过上九丁

京師書坊

植村藤三郎

梓行

通石町三丁目

東都書林

植村藤三郎

子孫橋三丁目

榻陽書舖

植村藤三郎

